

件 名

県立げんきプラザ再編整備計画について

提案理由

県立げんきプラザ再編整備計画について、別紙のとおりとしたいので、審議願います。

概 要

1 計画の趣旨

現在のげんきプラザの利用状況や、体験活動に対するニーズなど社会状況の変化を踏まえ、これからのげんきプラザが目指すべき方向性と再編についての考え方を示す。

2 計画の構成

I げんきプラザの概要

II 青少年教育施設を取り巻く状況

III げんきプラザの再編

「県立げんきプラザ再編整備計画」について

1 げんきプラザの概要

- 平成14年に「県立社会教育施設再編整備計画」を策定。
 - 従来の青年の家、少年自然の家などをげんきプラザとして、平成15年に再編整備。
 - 県の役割を「市町村では設置が困難な宿泊機能を備えた体験型施設において、市町村単位では実施が困難な広域的事業を重点的に行うほか、広域的グループにネットワーク型の活動の場を提供」することと定義。
- 現在6所(加須、大滝、長瀬、小川、神川、名栗)に設置、うち2所(加須、大滝)は直営で運営(他4施設は指定管理)。
- 施設によっては、日帰り利用やスポーツ利用に限られ、市町村では設置が困難な宿泊機能を備えた体験型施設として十分に活用されていない。

設置から約20年が経過し、げんきプラザの役割や機能を改めて検証し、**今後の方向性を検討**することとした。

2 げんきプラザの在り方の検討

- 令和5年度中に、体験活動などに関する有識者から意見を聴取。
- 集団宿泊活動の教育的意義の高さについて意見が多数述べられるとともに、当初の施設の目的(宿泊自然体験活動)に重点化する必要性が述べられた。

施設の機能を**宿泊型の体験学習に重点化**、**現在の6所体制を見直す**方向で検討を進める。

3 県立げんきプラザ再編整備計画の概要について

(1) げんきプラザの適正規模

ア 利用優先度

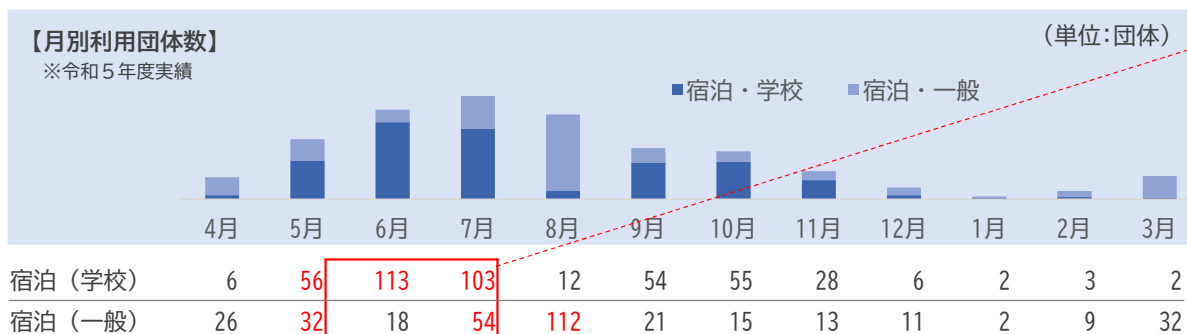
- 今後重点化していく役割を明確化するため、げんきプラザの利用形態を右の表のとおり分類。
- 施設の目的である自然体験活動や集団宿泊活動の利用を優先し、利用優先度を設定。

げんきプラザの利用優先度

	体験活動	その他 (スポーツ・文化活動など)
宿泊	優先度①	優先度③
日帰り	優先度②	優先度④

イ 適正規模

- 優先度①(宿泊・体験)と、優先度②(日帰り・体験)の利用ニーズに応えられる施設規模は維持する必要がある。
- なお、優先度①と②は、活動時間や場所の調整により同時受入れが可能。
- 優先度①の利用のピークが6～7月であり、この間の宿泊利用のニーズを満たす施設規模が適正と考えられる。



<宿泊・体験活動の6～7月の平均利用団体数>
学校108校/月 ・ 一般36団体/月

※ 月当たりの稼業日を月25日(月曜休所)と想定

一日あたり、

学校 4.3校 ・ 一般 1.4団体

の宿泊利用が可能な施設規模が適当

※ 一団体当たり学校は概ね100人、一般は概ね10～20人の規模が中心

3 県立げんきプラザ再編整備計画の概要について

(2) 各げんきプラザの優先度ごとの利用状況

- 各げんきプラザの優先度ごとの利用状況は右のとおり。
- 名栗・大滝・小川は優先度の高い利用形態が多い一方、加須・神川は体育館やグラウンド等を活用した日帰りのスポーツ利用等が大半を占める。
- また、大滝は宿泊室定員が400名と多く、複数校の受入れや大規模な団体の受入れが可能。

各げんきプラザの優先度ごとの利用優先度(R5年度・団体数) (単位:団体)

	宿泊室 定員	その他 宿泊定員	①宿泊・体験		②日帰・体験		③宿泊・その他		④日帰り・その他		合計	
			団体数	割合	団体数	割合	団体数	割合	団体数	割合	団体数	割合
加須	100	-	5	0.3%	11	0.6%	144	7.9%	1,655	91.2%	1,815	100.0%
大滝	400	18	65	35.1%	9	4.9%	42	22.7%	69	37.3%	185	100.0%
長瀬	100	40	126	19.6%	69	10.7%	65	10.1%	382	59.5%	642	100.0%
小川	150	115	232	42.9%	90	16.6%	18	3.3%	201	37.2%	541	100.0%
神川	100	36	62	6.0%	47	4.6%	77	7.5%	839	81.9%	1,025	100.0%
名栗	204	196	295	60.2%	57	11.6%	26	5.3%	112	22.9%	490	100.0%
全体	-	-	785	16.7%	283	6.0%	372	7.9%	3,258	69.3%	4,698	100.0%

※その他宿泊定員・・・テント・バンガロー等

(3) 自然体験活動の視点から見た施設の優先度

- 効果的な自然体験活動が提供できるコンテンツを持つかどうかから、施設の優先度を以下のとおり整理。



- **大滝、小川、名栗**は敷地及び周辺の自然環境を生かした自然体験活動が可能。 ※オリエンテーリングやハイキング、星空観察
- **長瀬**は自施設のみでは体験活動に制限があるが、周辺の自然環境を生かした体験活動が可能。 ※カヌー、宝登山登山
- **神川**はグラウンドなどを活用したスポーツ活動利用が中心で、自然を生かした体験活動にやや乏しい。
- **加須**は体育館などを活用したスポーツ活動利用が中心で、自然を生かした体験活動に乏しい。

(4) げんきプラザの再編

- 効果的に自然体験活動を提供する観点から、4所を適正規模とし、げんきプラザを運営することとする。
- 優先度ごとの利用状況及び保有コンテンツから、令和7年度末に加須げんきプラザ・神川げんきプラザの2所を廃止。
- あわせて、指定管理者制度導入から10年以上が経過し、県施策に沿った事業の実施のノウハウが一定程度蓄積されたことから、大滝げんきプラザ(直営)について、指定管理者制度の導入の検討を行う。

「県立げんきプラザ再編整備計画（案）」への意見等の概要について

1 県民コメント制度による意見募集期間

令和7年2月10日（月）から3月9日（日）まで

2 意見の提出者数及び意見件数

- ・提出者数 84名（個人81／団体3）
- ・意見件数 94件

3 意見の反映について

区分		意見件数
A	意見を反映し、案を修正したもの	0
B	既に案で対応済みのもの	0
C	案の修正はしないが、実施段階で参考とすることとしたもの	5
D	意見を反映できなかったもの	84
E	その他	5
合計		94

4 意見の反映区分と主な意見

C 案の修正はしないが、実施段階で参考とすることとしたもの（5件）

- ・ 宿泊型の施設利用者数を増やすためには、各施設の特徴を生かした利用プログラムを教育局で提案していくことも必要。
- ・ 施設規模を縮小することで、希望する時期に予約が殺到することが予想される。
- ・ 令和7年度末の廃止となると新たに利用する施設の検討が非常に困難。
- ・ 個人利用の使い勝手の改善やげんきプラザの認知度が低いため広告を増やすことが必要。
- ・ げんきプラザが廃止になるのは残念だが、大局的な見地からの再編整備は致し方ないこととを感じる。
「げんきプラザにおいてこれまで実施されてきた様々な事業のノウハウ等はげんきプラザにとって財産」であることから「継続する施設において可能な限り事業を引き継ぐこと」はとても大切。
加須げんきプラザを中心に開発された「人間関係づくりプログラム」は、学校内においても人間関係を深めることができる優れた体験活動であるため、「継続する施設」への継承だけではなく、継承先として、教員の研修施設や教員養成課程がある大学なども含めて検討すると、プログラムの更なる普及や開発の可能性もあるのではないかと。

D	意見を反映できなかったもの（８４件）
	・加須・神川げんきプラザを廃止することに反対。 （主な理由）利用者の減少が他のげんきプラザと比較しても顕著ではない。／スポーツや高齢者の身近な学びの場として機能している。／加須の周りでも様々な体験ができる。／加須は改修も実施され施設がきれい。スポーツ施設や生涯学習施設として運営すべき。／交通の便が良い。／廃止によりげんきプラザの所在地に偏りが生じる。／最小限の施設数で必要と考える機能を担う検討を行うことが、県民の利益を減らしており間違い。／たくさんの友達や思い出ができた。
E	その他（５件）
	・有識者を選定し直し再編整備計画を構築してほしい。 ・統計に関する質問。

県立げんきプラザ再編整備計画

埼玉県教育委員会

目次

I	げんきプラザの概要	
1	げんきプラザとは	2
2	施設の状況	3
3	利用状況	5
4	現在の取組	8
5	維持管理経費	9
II	青少年教育施設を取り巻く状況	
1	青少年教育施設の状況	10
2	子供たちと体験活動	11
3	生涯学習に関する状況	13
4	げんきプラザの設置意義	14
III	げんきプラザの再編	
1	目指すべき方向性	18
2	げんきプラザの再編	20
3	再編後の運営体制	23

I げんきプラザの概要

1 げんきプラザとは

- 平成14年10月「県立社会教育施設再編整備計画」を策定、県立社会教育施設のうち、時代の変化により、利用者層や利用状況が設置当時と大きく変化した青少年教育施設について、県と市町村との役割分担の観点から抜本的見直しを行い、「新しいタイプの青少年教育施設」として再編を決定
- 平成15年4月、「少年自然の家(小川・名栗)」「青年の家(加須・長瀬・神川)」「大滝グリーンスクール」を再編整備し、「げんきプラザ」を設置
- 平成19年4月「名栗げんきプラザ」に指定管理者制度を導入
- 県直営と指定管理施設の役割を明確にし、平成23年4月「長瀬げんきプラザ」「小川げんきプラザ」「神川げんきプラザ」に指定管理者制度を導入

青少年教育施設の設置目的の変遷

青年の家

主として**勤労青少年の健全な育成**を図るための社会教育施設

少年自然の家

自然環境の中で少年の健全な育成を図るための社会教育施設

大滝グリーンスクール

高校の教育活動としての**集団活動**を通じて、**心身共に健康で人間性豊かな生徒の育成**を図るための施設

げんきプラザ

集団宿泊活動、自然体験活動等を通じて、**青少年の健全な育成**を図るとともに、県民の**生涯学習活動の振興**に資するための社会教育施設

県の役割

市町村では設置が困難な宿泊機能を備えた体験型施設において、**市町村単位では実施困難な広域的事業**を重点的に行うほか、広域的グループにネットワーク型の活動の場を提供

直営施設

- 県の施策の実施及び研究調査、研究成果の提供
- ボランティア等の人材養成
- 出前講座

指定管理施設

- 得意分野を生かした自然体験活動
- 施設の特色を生かした主催事業
- 県の施策への協力

I げんきプラザの概要

2 施設の状況

(1)各施設の場所と概要

指定
管理

神川げんきプラザ



埼玉県西北端、県立上武自然公園の一角に立地
炊事場などの野外活動施設や、体育館、広大なグラウンド等を活用したスポーツ利用や体験活動を実施

指定
管理

小川げんきプラザ



埼玉県西部の標高260mの山の頂に立地
敷地内に遊歩道が整備され、バンガローや炊事場などの野外施設、プラネタリウムなど自然環境を生かした体験活動を実施

直営

加須げんきプラザ

駅から近く、唯一の都市型施設
多彩な研修室や体育館、運動広場など人々が集う社会教育施設



指定
管理

長瀬げんきプラザ

秩父地域の荒川沿いに立地
キャンプ場等の野外活動施設や豊富な観光資源を生かした体験活動を実施



直営

大滝げんきプラザ

標高900mに位置し、集団宿泊や自然体験活動が可能
400名が宿泊可能な大型施設



指定
管理

名栗げんきプラザ

埼玉県西部の県立奥武蔵自然公園内に立地
豊かな自然と、キャンプ場やプラネタリウム施設を生かした体験活動を実施



I げんきプラザの概要

2 施設の状況

(2)各施設の詳細

	加須	大滝	長瀬	小川	神川	名栗
運営	直営	直営	指定管理(R3～R7)	指定管理(R3～R7)	指定管理(R3～R7)	指定管理(R4～R8)
建築年度	S59	H4	H4	S46	S48	S56
改修年度 (状況)	R1 (大規模改修)	H25 (中間改修)	—	R4 (中間改修)	H21 (中間改修)	H24 (大規模改修)
建築(改修)後 経過年数	40年 (5年)	32年 (11年)	32年	53年 (2年)	51年 (15年)	43年 (12年)
敷地面積	18,352㎡	204,018㎡	10,483㎡	430,917㎡	58,283㎡	107,893㎡
建物面積	4,926㎡	8,921㎡	3,765㎡	4,953㎡	2,764㎡	5,123㎡
宿泊可能人数 (内訳)	100名 (宿泊室100名)	418名 (宿泊室400名) (テント18名)	140名 (宿泊室100名) (テント40名)	265名 (宿泊室150名) (テント15名) (バンガロー100名)	136名 (宿泊室100名) (テント 36名)	400名 (宿泊室200名) (身障者用4名) (テント120名) (バンガロー76名)
主な保有施設	● 体育館 ● テニスコート	● 体育館 ● 天文台 ● オリエンテーリングコース	● 体育館 ● 研修室	● プラネタリウム ● 活動センター ● オリエンテーリングコース	● 体育館 ● グラウンド ● テニスコート ● アドベンチャーランド	● プラネタリウム ● プレイホール ● キャンプファイヤー場
アクセス	東武鉄道花崎駅 徒歩6分	関越自動車道 花園IC車1時間40分	秩父鉄道野上駅 徒歩10分	関越自動車道 嵐山小川IC車19分	関越自動車道 本庄児玉IC車18分	関越自動車道 花園IC車1時間

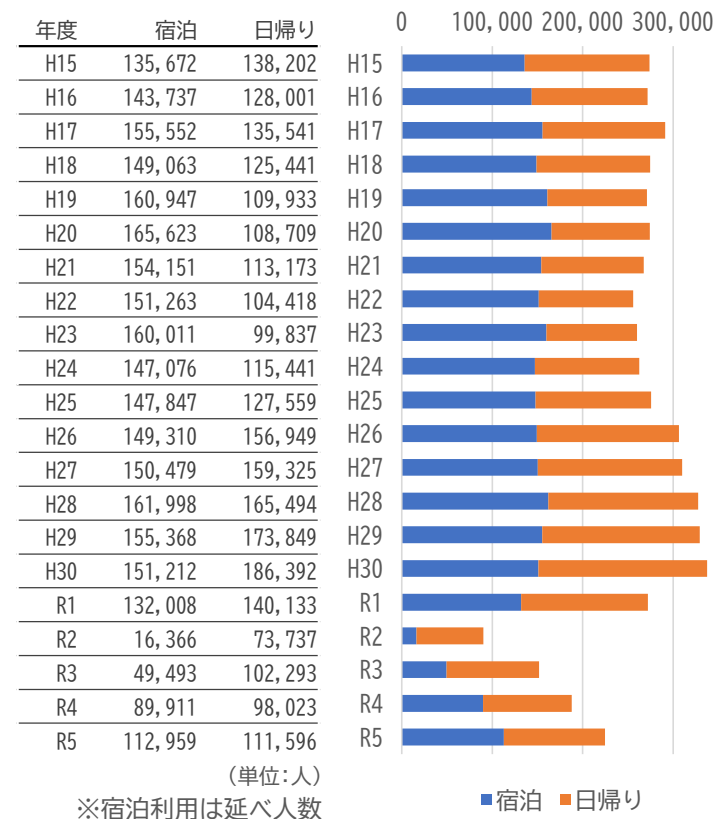
I げんきプラザの概要

3 利用状況

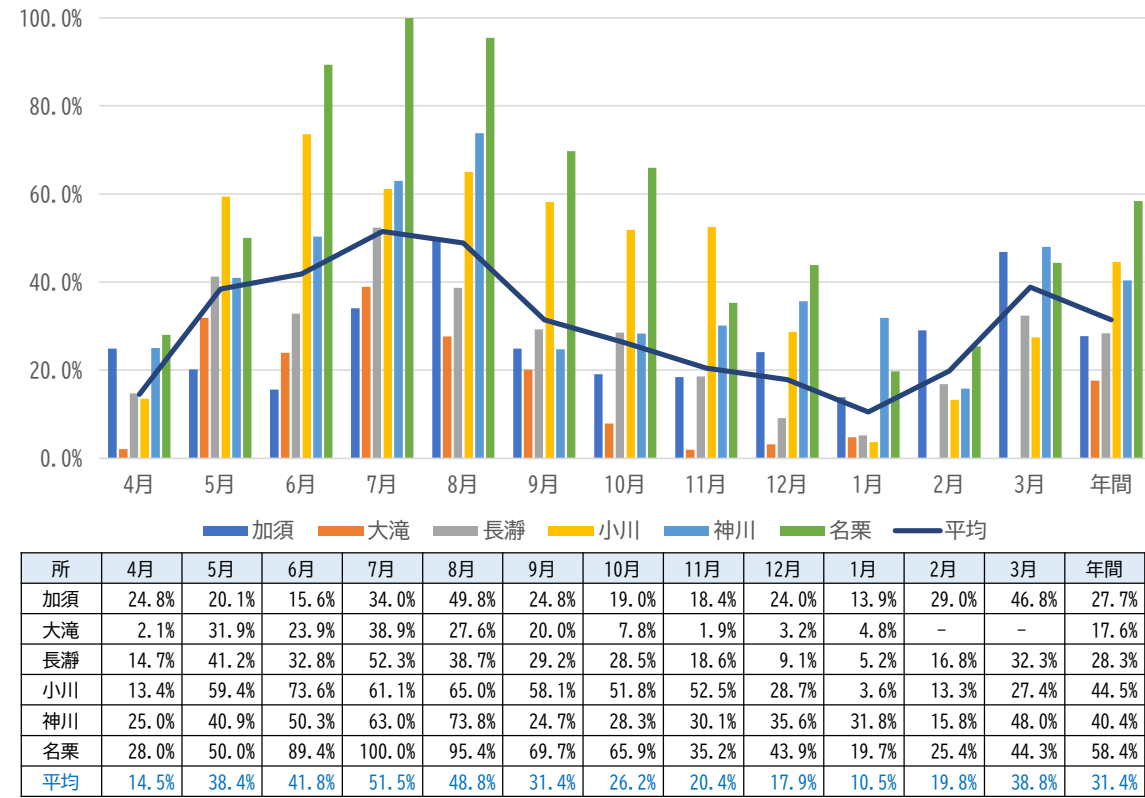
(1) 利用人数の推移と宿泊室稼働率

- げんきプラザ開設以来、新型コロナウイルス感染症の影響前まで、宿泊利用者はほぼ横ばいの一方、日帰り利用は増加傾向にあった。
- 施設のコンテンツの関係から上半期の利用が多い。

げんきプラザ利用者数の推移(6所計)



R5宿泊室稼働率



※大滝(2,3月)は施設改修のため宿泊受入れ停止

I げんきプラザの概要

3 利用状況

(2)げんきプラザ別利用人数の推移

年度	加須			大滝			長瀬			小川			神川			名栗		
	利用人数			利用人数			利用人数			利用人数			利用人数			利用人数		
	宿泊 (延)	日帰り	計	宿泊 (延)	日帰り	計	宿泊 (延)	日帰り	計	宿泊 (延)	日帰り	計	宿泊 (延)	日帰り	計	宿泊 (延)	日帰り	計
H15	20,459	34,054	54,513	46,618	1,099	47,717	12,391	12,469	24,860	26,731	20,020	46,751	5,638	51,532	57,170	23,835	19,028	42,863
H16	19,292	34,855	54,147	47,679	1,625	49,304	13,922	14,871	28,793	25,712	21,880	47,592	9,620	42,011	51,631	27,512	12,759	40,271
H17	18,920	39,063	57,983	49,306	2,362	51,668	17,104	11,916	29,020	27,567	22,983	50,550	11,037	41,838	52,875	31,618	17,379	48,997
H18	20,922	38,073	58,995	46,132	3,718	49,850	13,004	12,249	25,253	31,483	19,543	51,026	13,398	40,884	54,282	24,124	10,974	35,098
H19	22,143	35,977	58,120	47,721	1,941	49,662	13,949	11,313	25,262	31,768	19,744	51,512	12,831	27,821	40,652	32,535	13,137	45,672
H20	18,338	31,518	49,856	51,243	2,555	53,798	14,306	12,301	26,607	32,059	19,964	52,023	14,337	27,457	41,794	35,340	14,914	50,254
H21	18,063	38,549	56,612	45,207	3,219	48,426	13,965	13,724	27,689	30,935	20,928	51,863	12,644	23,480	36,124	33,337	13,273	46,610
H22	19,464	31,611	51,075	46,424	2,738	49,162	14,669	11,562	26,231	29,048	21,762	50,810	11,025	18,232	29,257	30,633	18,513	49,146
H23	11,996	24,609	36,605	52,008	3,817	55,825	16,361	10,162	26,523	28,366	15,597	43,963	14,695	28,022	42,717	36,585	17,630	54,215
H24	17,630	38,410	56,040	49,618	2,610	52,228	15,128	12,869	27,997	32,643	24,623	57,266	12,638	29,564	42,202	19,419	7,365	26,784
H25	17,228	40,402	57,630	36,268	2,693	38,961	16,881	14,975	31,856	28,627	29,011	57,638	13,497	30,007	43,504	35,346	10,471	45,817
H26	17,685	45,590	63,275	40,742	3,410	44,152	18,866	17,063	35,929	26,340	36,490	62,830	11,600	39,193	50,793	34,077	15,203	49,280
H27	17,935	48,240	66,175	38,147	2,392	40,539	19,978	17,199	37,177	26,253	38,029	64,282	14,323	36,825	51,148	33,843	16,640	50,483
H28	17,762	48,629	66,391	43,603	7,870	51,473	18,719	20,241	38,960	29,637	36,585	66,222	14,596	38,383	52,979	37,681	13,786	51,467
H29	17,524	48,736	66,260	36,687	11,220	47,907	19,547	21,148	40,695	27,649	40,879	68,528	14,336	38,208	52,544	39,625	13,658	53,283
H30	17,794	52,761	70,555	35,679	12,873	48,552	19,247	22,919	42,166	29,366	40,031	69,397	12,891	40,565	53,456	36,235	17,243	53,478
R1	6,374	24,821	31,195	30,972	9,065	40,037	17,756	23,235	40,991	27,624	34,815	62,439	13,222	32,664	45,886	36,060	15,533	51,593
R2	1,302	17,672	18,974	3,420	1,502	4,922	596	4,823	5,419	4,019	13,706	17,725	838	24,392	25,230	6,191	11,642	17,833
R3	3,911	23,346	27,257	10,403	1,518	11,921	4,136	7,890	12,026	9,310	19,591	28,901	3,954	35,184	39,138	17,779	14,764	32,543
R4	6,988	27,948	34,936	20,241	2,023	22,264	10,955	11,158	22,113	13,119	13,976	27,095	8,685	30,964	39,649	29,923	11,954	41,877
R5	10,389	30,167	40,556	19,751	2,270	22,021	12,812	19,818	32,630	21,468	18,985	40,453	11,215	30,044	41,259	37,324	10,312	47,636

(単位:人)

※宿泊利用は延べ人数

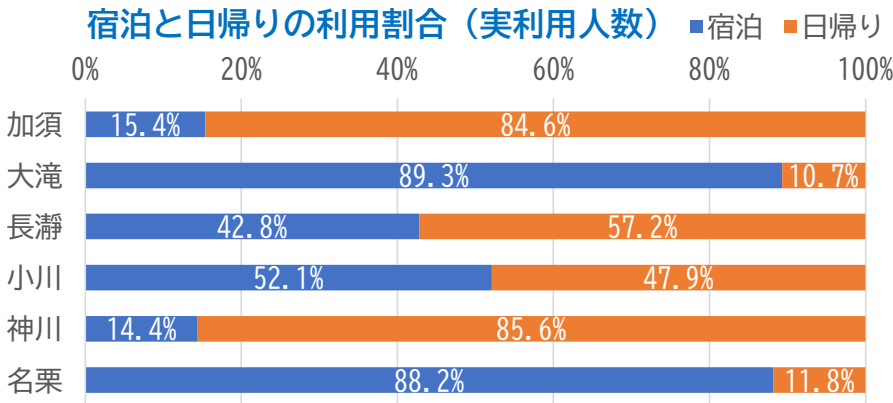
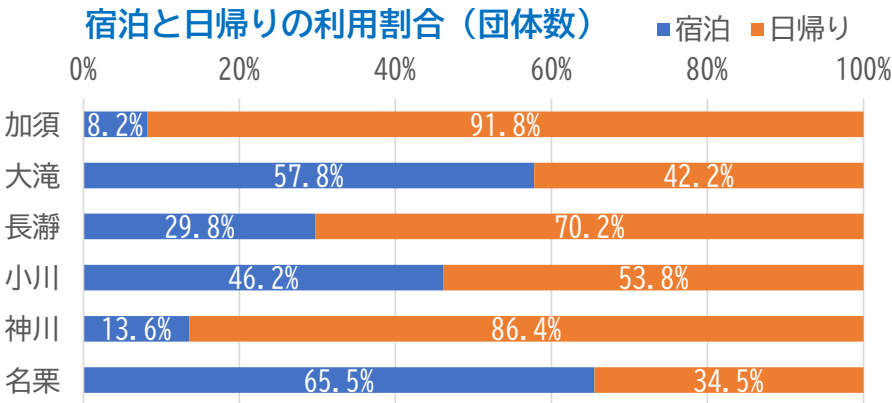
I げんきプラザの概要

3 利用状況

(3)令和5年度の施設ごとの利用状況

ア 宿泊利用と日帰り利用の状況

令和5年度における各げんきプラザの宿泊利用と日帰り利用(主催事業を除く。)の団体及び実利用人数の割合は以下のとおり。



イ 学校による林間学校等の利用の状況

令和5年度における各げんきプラザの学校による宿泊利用(林間学校等の体験活動)の状況は以下のとおり。

	加須	大滝	長瀬	小川	神川	名栗
幼稚園・保育園	1	0	3	13	0	21
小学校	0	17	21	91	23	102
中学校	0	33	14	10	8	7
高等学校	0	5	0	1	1	4
特別支援学校	0	0	44	7	6	8
計	1	55	82	122	38	142

(単位:校)

I げんきプラザの概要

4 現在の取組

げんきプラザでは施設を活用し、時代の変化に合わせ様々な事業を実施しているが、市町村で実施されている取組と類似のものも見られる。

特別な支援が必要な児童生徒に対する体験活動の機会の提供

不登校や子供の貧困などの現代的教育課題に焦点を当て、特別な支援が必要な児童生徒に対し体験活動の機会を提供

■ いきいき体験活動事業(障害のある児童生徒向け)

(例)特別支援学校や学級に在籍する子供と家族を対象にしたクラフト作りと郷土料理作りの体験プログラムを実施(名栗げんきプラザ)

■ わくわく未来事業(不登校傾向の児童生徒向け)

(例)登校に不安を抱える児童生徒と家族を対象に、水に関するSDGs学習、川のアクティビティを実施(長瀬げんきプラザ)

■ のびのびチャレンジ事業(経済的に困窮した家庭環境の児童生徒向け)

(例)ジュニアアスポートに通う小学生及び支援員を対象にうどん作り体験(加須げんきプラザ)

学校の授業と関連付けた体験活動の推進

げんきプラザの体験活動プログラムを、学校の授業の中で活用するための授業案を立案し、試行を経て各学校へ展開

■ 探検！発見！秩父の自然(大滝げんきプラザ)

自然体験活動

- 小・中学生向けの宿泊を伴うハイキング、野外炊事、キャンプファイヤーなどの自然体験アクティビティ
- 家族向けの宿泊を伴うオリエンテーリング等の自然体験アクティビティ
- 一般向けのプラネタリウム鑑賞イベントや天体観測

人との関わり方に関するプログラム

- アドベンチャー教育プログラム(神川げんきプラザ)
- 人間関係づくりプログラム(加須げんきプラザ)

ボランティア養成

- 自然体験・野外活動のボランティア養成研修

防災教育

- 家族を対象に避難所体験や防災クッキング、防災クラフトの作成等

スポーツ活動

- スポーツ少年団による練習や合宿、交流大会
- 社会人、高齢者団体によるスポーツ利用

研修・講座・その他

- 民間企業やNPO、地域の団体の研修
- 地域の高齢者などに対するスマートフォンやSNS講座
- 大人向けの陶芸教室
- ピザ・うどん・そば作りなどの料理教室
- 音楽サークルの活動や練習

I げんきプラザの概要

5 維持管理経費

(1)年間管理費と想定改修コスト

年間管理費と、今後想定される大規模改修等の経費を年当たりに換算したものを合計すると、一施設当たりの年間コストは平均1.7億円必要。

単位:百万円

	加須	大滝	長瀬	小川	神川	名栗	平均
年間管理費	94	112	76	89	86	97	92.3
改修費 (年当たり)	73	120	83	68	34	68	74.3
合計	167	232	159	157	120	165	166.7

年間管理費:直営施設(人件費・事業費・光熱水費・維持点検経費など)・指定管理施設(指定管理料)
改修費:令和35年度までの大規模改修等の費用を年数で割ったもの

(2)直営施設と指定管理施設

指定管理者制度へ移行した4所(長瀬・小川・神川・名栗)の、制度導入前後の年間管理費の推移は以下のとおりであり、指定管理者制度の導入は年間管理費の削減につながる。ただし、人件費の高騰等により、指定管理料は増加傾向にあることに留意が必要。

単位:百万円

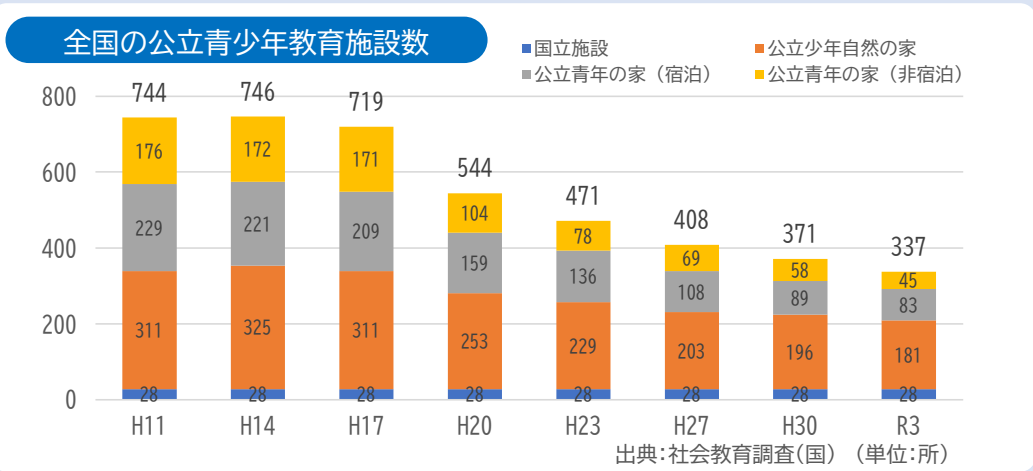
	指定管理 導入年度	直営時 年間管理費	初年度 指定管理料	削減率	(参考) R6指定管理料
長瀬	H23	96	70	27.1%	76
小川	H23	126	86	31.7%	89
神川	H23	90	80	11.1%	86
名栗	H19	136	84	38.2%	97
平均	-	112	80	28.6%	87

II 青少年教育施設を取り巻く状況

1 青少年教育施設の状況

青少年教育施設の設置状況

全国的に青少年教育施設は減少傾向にあり、近県と比較しても埼玉県は施設数が多い状況にある。



近県の青少年教育施設数の推移 (単位：所)

	H20	R6	近年の見直し状況
茨城	5	2	・ 白浜少年自然の家(R6.3廃止)
栃木	4	3	・ 芳賀青年の家(R6.3廃止) ・ 太平少年自然の家(R6.3廃止) ・ 自然の家みかも(R6.4設置)
群馬	4	3	・ 妙義青少年自然の家(R4.3廃止)
千葉	5	5	・ 東金青少年自然の家(R8.3廃止予定)
神奈川	6	2	・ 三浦ふれあいの村(H30.4廃止)

近県の青少年教育施設設置状況(R6.4.1) (単位：人)

	施設名	運営方法	宿泊可能人数
茨城	中央青年の家	指定管理	200
	さしま少年自然の家	指定管理	192
栃木	なす高原自然の家	指定管理	200
	とちぎ海浜自然の家	指定管理	588
	自然の家みかも	指定管理	204
群馬	北毛青少年自然の家	直営	125
	東毛青少年自然の家	直営	200
	群馬県青少年会館	指定管理	99
千葉	手賀の丘青少年自然の家	指定管理	300
	水郷小見川青少年自然の家	指定管理	220
	君津亀山青少年自然の家	指定管理	300
	鴨川青少年自然の家	指定管理	360
	東金青少年自然の家	指定管理	200
神奈川	愛川ふれあいの村	指定管理	400
	足柄ふれあいの村	指定管理	450

出典：各県HP

II 青少年教育施設を取り巻く状況

2 子供たちと体験活動

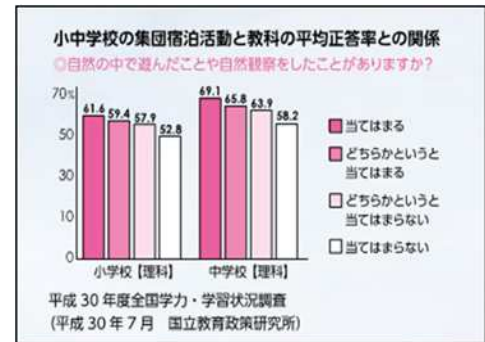
(1) 体験活動の効果と機会の減少

自然体験や生活体験が多い子供ほど、学力テストの結果や自己肯定感が高い傾向にある一方で、子供たちの体験活動の機会や場は減少している状況にあり、体験活動ができる施設の重要性は高まっている。

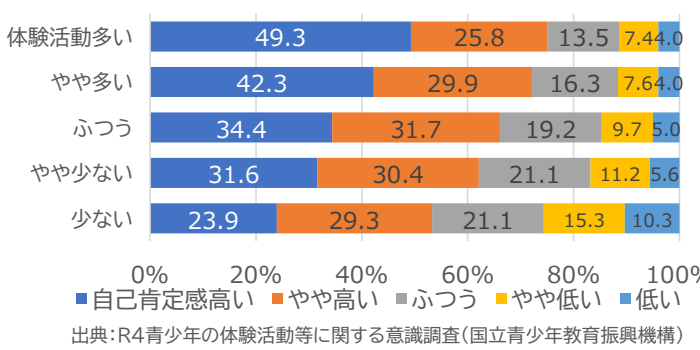
体験活動の効果や意義

- ✓ 体験活動は学力テストの平均正答率に良い影響を及ぼしている。
- ✓ 自己肯定感をはじめ、自尊感情、自律性、協調性、積極性といった非認知能力の上昇、物事に対する意欲の向上に効果がある。

小学校の集団宿泊活動と教科の平均正答率との関係



自然体験と自己肯定感の関係



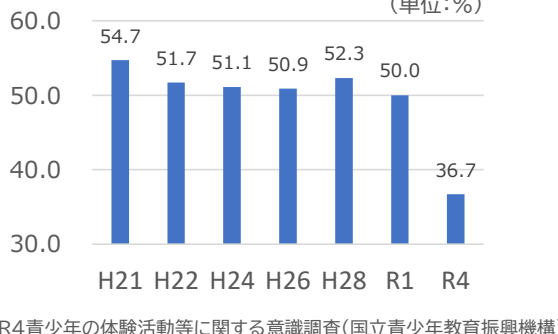
子供の体験活動の機会や場の減少

- ✓ 子供たちの体験活動の受け皿となる国公立青少年教育施設は減少傾向にある。
- ✓ 自然体験に関する行事に参加した子供の割合が減少傾向にある*。

国公立青少年教育施設数の推移



自然体験活動(学校以外)の参加率



*企業等と連携した子供のリアルな体験活動の推進について(子供の体験活動推進に関する実務者会議論点のまとめ)(R4.12.27 文部科学省)

II 青少年教育施設を取り巻く状況

2 子供たちと体験活動

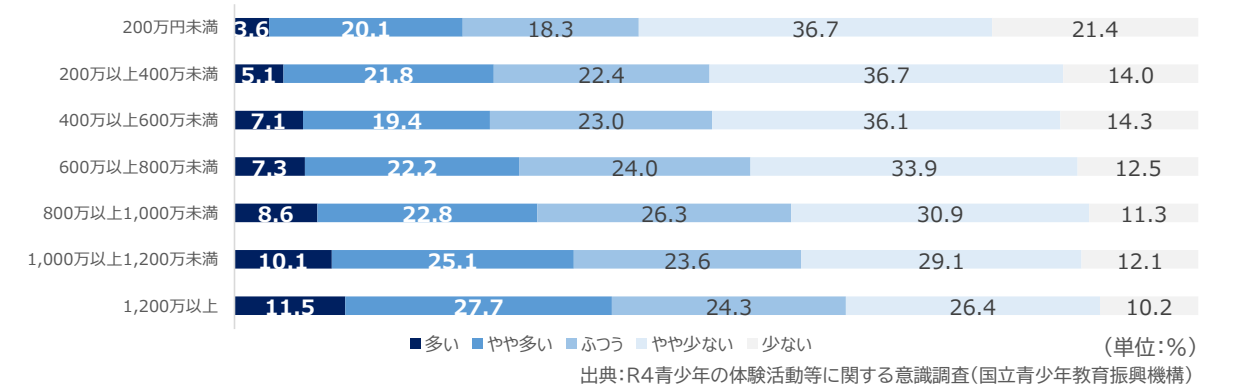
(2)現代的教育課題と体験活動

世帯収入が子供の体験活動に影響を与えることが明らかになっており、不登校児童生徒の増加など、現代的教育課題に対して体験活動の機会を提供する必要がある。

世帯収入と子供の体験活動

- ✓ 世帯年収が減るほど、子供の自然体験は少なくなる傾向がある。

世帯年収ごとの子供の自然体験(小学生の保護者)

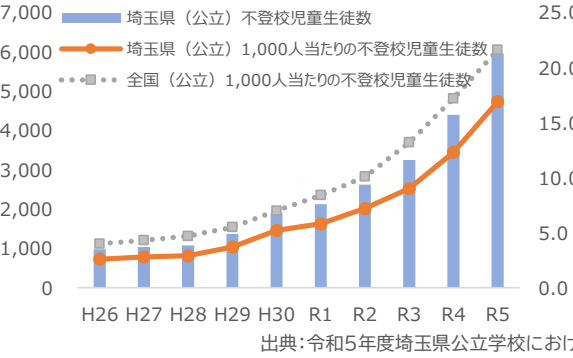


不登校児童生徒に対する体験活動の必要性

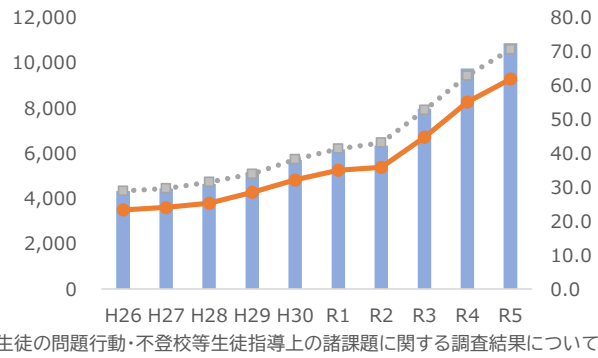
- ✓ 県内公立小・中学校の**不登校児童生徒数は増加傾向**であり、全国的な状況も同様。
- ✓ 不登校児童生徒は、**体験活動や友人と触れ合う機会などを十分得られていない状況を踏まえ、学校以外で様々な活動を行うことができる場所や機会を確保する必要がある***。

*不登校児童生徒による学校以外の場での学習等に対する支援の充実～個々の児童生徒の状況に応じた環境づくり～報告(H29.2.13 フリースクール等に関する検討会議(文部科学省))

不登校児童数の推移(小学校)



不登校生徒数の推移(中学校)



II 青少年教育施設を取り巻く状況

3 生涯学習に関する状況

生涯学習活動の効果と課題

生涯学習活動によって人生が豊かになっていると考える者が多い一方、学んだ知識を生かすことができる機会や生かし方が分からないことを課題としている者も多い。

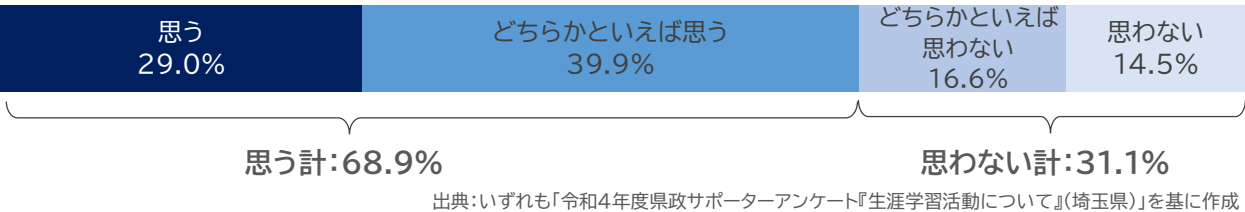
生涯学習活動の効果

- ✓ 生涯学習活動を通じて学んだ知識や技能、経験等を生活や仕事などに生かしていると思う(どちらかといえば思うを含む)と答えた者は約7割であった。
- ✓ 上記のうち、学んだ知識等を生かすことにより、人生が豊かになっていると考えている者は約7割、健康の維持・増進に役立っている者も約5割であり、**県民の生き生きとした生活に一定の効果**がある。

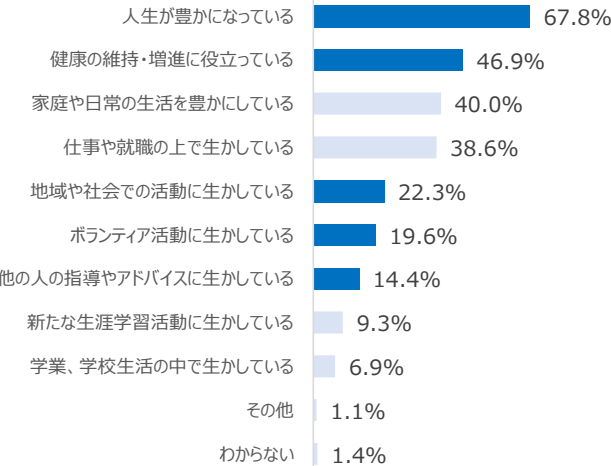
生涯学習活動の課題

- ✓ 学んだ知識等を生活や仕事などに生かせていないと思っている者は、**生かせる施設や機会が少ない、生かし方が分からない**等を課題としている。

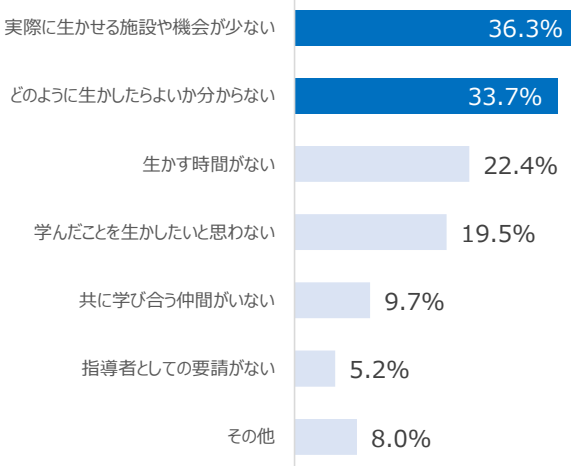
生涯学習活動を通じて学んだ知識や技能、経験等を生活や仕事に生かしているか



生涯学習活動を通じて学んだ知識や技能、経験等の生かし方(複数回答)



学んだ知識や技能、経験等を生かしていない理由(複数回答)



II 青少年教育施設を取り巻く状況

4 げんきプラザの設置意義

(1)利用ニーズ:人口推計

本県の人口は令和3年の734.3万人まで増加を続けてきたが、令和4年には減少に転じ、令和22年には約691万人に減少すると予想されている。また、年少人口(0～14歳)は昭和55年をピークに減少を続けており、令和2年を基準とした場合、令和22年には約16%の減少が見込まれている。

このことから、げんきプラザの利用ニーズも、長期的に減少傾向にあることが想定される。

埼玉県の子少人口推計



0-14歳 人口の推移

	人口 (人)	指数	増減率	構成比
S40年	790,961	90.6	5.2%	26.2%
S45年	1,002,863	114.9	26.8%	25.9%
S50年	1,340,711	153.6	33.7%	27.8%
S55年	1,459,408	167.2	8.9%	26.9%
S60年	1,380,850	158.2	-5.4%	23.5%
H02年	1,200,266	137.5	-13.1%	18.7%
H07年	1,092,150	125.1	-9.0%	16.2%
H12年	1,026,689	117.6	-6.0%	14.8%
H17年	988,989	113.3	-3.7%	14.0%
H22年	954,827	109.4	-3.5%	13.3%
H27年	913,657	104.7	-4.3%	12.6%
R02年	872,859	100.0	-4.5%	11.9%
R07年	819,893	93.9	-6.1%	11.2%
R12年	774,261	88.7	-5.6%	10.7%
R17年	747,571	85.6	-3.4%	10.5%
R22年	735,523	84.3	-1.6%	10.6%
R27年	714,846	81.9	-2.8%	10.6%
R32年	684,224	78.4	-4.3%	10.5%

出典：埼玉県の市町村別将来人口推計ツール(統計課)から作成

II 青少年教育施設を取り巻く状況

4 げんきプラザの設置意義

(2)利用ニーズ:学校行事での利用(県内公立学校向け調査結果)

さいたま市を除く県内公立小・中・特別支援学校における宿泊を伴う体験活動の実施場所として多く利用されており、げんきプラザは子供たちの体験活動において重要な活動場所となっている。

県内公立小・中・特別支援学校の宿泊を伴う体験活動の状況

- 令和5年度において、県内の公立小学校の約97%、中学校の約78%が宿泊を伴う体験活動を実施(さいたま市を除く。)
- そのうち県内を実施場所としている学校のほとんどがげんきプラザを利用

学校種ごとの体験活動の実施状況

学校種		学校数	実施校数 (県内実施)	実施割合	げんき プラザ 利用数	げんき プラザ 利用割合 (県内実施に 占める割合)
小学校		692	672 (245)	97.1%	233	34.7% (95.1%)
中学校		354	277 (55)	78.2%	51	18.4% (92.7%)
特別支援 学校 (県立)	小学部	34	24 (19)	70.6%	11	45.8% (57.9%)
	中学部	34	30 (22)	88.2%	21	70.0% (95.5%)
	高等部 (分校含む。)	44	37 (29)	84.1%	26	70.3% (89.7%)

げんきプラザ別利用状況

(単位:校)

加須	大滝	長瀬	小川	神川	名栗
	17	20	87	20	89
	34	5	2	7	3
2		3	5	1	
2		14	1	3	1
3		16		1	6

出典:体験活動に関する調査(R5生涯学習推進課調査)

Ⅱ 青少年教育施設を取り巻く状況

4 げんきプラザの設置意義

(3)利用ニーズ:生涯学習での利用(県政サポーターアンケート結果)

県政サポーターアンケートの結果によれば、学校での利用を除き、過去5年間でげんきプラザを利用したことのある人は4.8%であり、生涯学習での利用は限定的である。自然体験を中心としたニーズが高く、プログラムを充実させ、更なる利用に向けた取組が必要である。

げんきプラザの利用状況(学校での利用を除く。)

利用状況

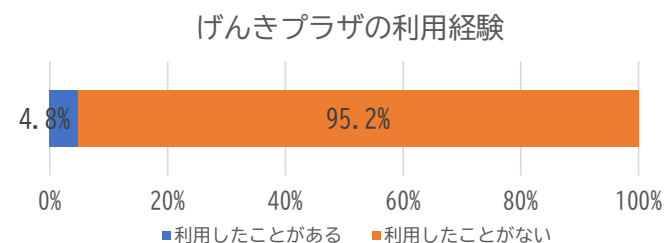
- 過去5年間(H31～R5)の間に、げんきプラザを利用したことのある人の割合は4.8%
- 利用したことのある人の、利用したげんきプラザは小川げんきプラザ(32.7%)が最も多く、名栗げんきプラザ(29.1%)、加須げんきプラザ(27.3%)と続く。

利用した目的

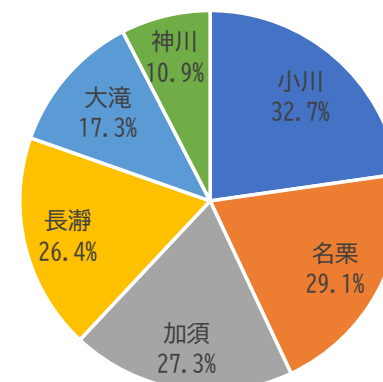
- 利用した目的の上位は以下のとおりであり、自然体験を行うためのニーズが高い。
 - ・ 野外活動(登山・ハイキング・キャンプ等)をするため(54.5%)
 - ・ プラネタリウムの利用や天体観測をするため(29.1%)
 - ・ ネイチャークラフト工作などの創作活動をするため(22.7%)
 - ・ 自身が所属する企業や団体の研修に参加するため(20.0%)
 - ・ 体育館やグラウンド等でスポーツをするため(16.4%)

げんきプラザに充実してほしい機能

- 充実を望むげんきプラザの機能の上位は以下のとおりであり、自然体験の充実が望まれている。
 - ・ 自然に親しむことを目的としたプログラム(33.8%)
 - ・ プラネタリウムや天体観測(31.7%)
 - ・ 趣味に興じるためのプログラム(27.8%)



利用したげんきプラザの割合



出典:県政サポーターアンケート「県立げんきプラザについて」(R6.4)

Ⅱ 青少年教育施設を取り巻く状況

4 げんきプラザの設置意義

(4)設置意義

げんきプラザの設置から20年が経過したが、設置目的である「青少年の健全育成」と「生涯学習活動の振興」は近年も引き続き求められている。一方、社会状況の変化を捉え、求められる機能に注力していく必要がある。

げんきプラザの設置目的

集団宿泊活動、自然体験活動等を通じて、**青少年の健全な育成**を図るとともに、**県民の生涯学習活動の振興**に資するための社会教育施設として、げんきプラザを設置する。

(埼玉県立げんきプラザ条例第1条(抄))

青少年の健全育成におけるげんきプラザの設置意義

学校教育法(抜粋)

第21条第2号 学校内外における**自然体験活動**を促進し、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。

第31条 (略)教育指導を行うに当たり、**児童の体験的な学習活動**、特にボランティア活動など社会奉仕体験活動、**自然体験活動その他の体験活動の充実**に努めるものとする。(略)

学習指導要領 小学校(抜粋)※中・高・特同様

第1章総則 第1 1(2) 道德教育や**体験活動**、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努めること。

第6章特別活動 (4)遠足・集団宿泊的行事 **自然の中での集団宿泊活動**などの平素と異なる生活環境^{かん}にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道德などについての体験を積むことができるようにすること。

R3.1.26 中教審答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して(抜粋)」

「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、(略)探究的な学習や**体験活動などを通じ**、子供同士で、あるいは(略)多様な他者と協働しながら、(略)他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「**協働的な学び**」を**充実**することも重要。

生涯学習活動の振興におけるげんきプラザの設置意義

社会教育法(抜粋)

第三条 (略)地方公共団体は、(略)**社会教育の奨励に必要な施設の設置及び運営**、(略)すべての国民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら实际生活に即する文化的教養を高め得るような環境を醸成するように努めなければならない。

H30.12.21 中教審答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」(抜粋)

誰もが**生涯にわたり必要な学習を行い、その成果を(略)生かすことのできる**「生涯学習社会」実現への取組をより強固に進める必要がある。

Ⅲ げんきプラザの再編

1 目指すべき方向性

(1)有識者会議

社会状況の変化などを踏まえ、げんきプラザの役割や機能を改めて検証し、今後の方向性を整理するため、令和5年度に有識者会議を開催し、意見を聴取した。有識者からは**集団宿泊活動の教育的意義の高さについて**意見が多数述べられる一方、**施設の目的(宿泊自然体験活動)に沿った利用へ重点化する必要性**が述べられ、今後のげんきプラザの方向性と、重点的な機能として以下の三つが挙げられた。

今後の方向性1 豊かな自然を生かしてすべての子供たちにリアルな体験を提供する社会教育施設

機能

- 体験活動の専門家が、学校の教育活動を支援することにより、子供たちの資質能力の向上を図る機能
- 特別な支援が必要な子供や様々な課題を抱える子供たちにとって、質の高い体験活動を行える機能

今後の方向性2 県民の生涯学習振興のネットワークの拠点となる社会教育施設

機能

- 県民が地域や社会とつながり、生き生きとアクティブな人生を過ごすための活動ができる場を提供する機能
- 県内にある他の社会教育施設等と連携し県民の生涯学習の振興を支援する機能

今後の方向性3 県が果たす広域的な役割に重点化し、宿泊型の体験活動を中心に提供する社会教育施設

機能

- 周辺の自然環境や施設の特徴を生かした体験や宿泊を通じて、自立心や協調性を養い、仲間同士の交流を図る機能
- 多様な利用者のニーズや規模に対応できる体験活動プログラムを提供する機能
- 多様な利用者が安全かつ快適に寝食を共にできる宿泊機能

Ⅲ げんきプラザの再編

1 目指すべき方向性

(2)今後のげんきプラザの方向性

有識者会議の意見を踏まえ、げんきプラザの設置目的である「**集団宿泊活動・自然体験活動**」に改めて重点化し、施設を運営していくこととする。
また、方向性2で示された、生涯学習振興のネットワーク拠点としての機能については、県全域を捉えた施策等の展開が必要であることから、教育局において必要な施策を調査・研究し、各施設と連携して取り組んでいくこととする。

有識者会議で示された今後の方向性についての考え方

方向性	内容	考え方
方向性1	豊かな自然を生かしてすべての子供たちにリアルな体験を提供する社会教育施設	● 体験活動の重要性は学習指導要領の特別活動に位置付けられており、引き続き重要。 ● 不登校児童生徒の社会的自立に向けた支援として、体験活動を通じた学びの場の提供をすることは重要。 ● 不登校支援など、利用しやすい日帰りの体験活動の価値は高い。また、出前事業などより利用しやすい取組の検討も必要。
方向性2	県民の生涯学習振興のネットワークの拠点となる社会教育施設	● 生涯学習の場としての機能はげんきプラザで引き続き担っていく。 ● ネットワークの拠点機能は教育局で担っていく。
方向性3	県が果たす広域的な役割に重点化し、宿泊型の体験活動を中心に提供する社会教育施設	● 共同で夜を含めて生活し、様々な体験をすることは子供たちの自信につながるほか、人間関係作りの面からも効果が高い。 ● 宿泊日数が長くなるほど子供たちの人間関係もできてくるなど、宿泊の機能を提供していくことが重要。

(3)埼玉県行財政改革プログラム

埼玉県行財政改革プログラム(令和5～7年度)において、公の施設の在り方の検討を進めており、げんきプラザについては、「**最小限の施設数で必要と考える機能を担う検討を行うこと**」としたことから、今後の方向性を踏まえたニーズを把握し、**適切な施設規模**とすることが必要。

Ⅲ げんきプラザの再編

2 げんきプラザの再編

(1)再編についての考え方

ここまで述べた重点化していく機能や、公の施設の在り方の検討、各施設の老朽化等への対応が必要となる状況から、げんきプラザを魅力的に運用するためには、適正な施設数とすることが必要。

そのため、げんきプラザの利用の形態を以下の4つに分類し、その中でも優先度の高い「宿泊・体験活動」「日帰り・体験活動」の利用ニーズに応えられる施設規模を維持し、施設の魅力化を図ることとする。

げんきプラザの利用形態の分類と今後の優先度

利用区分 \ 利用内容	体験活動	その他（スポーツ・文化活動など）
	優先度①	優先度③
宿泊	優先度①	優先度③
日帰り	優先度②	優先度④

利用形態ごとの考え方

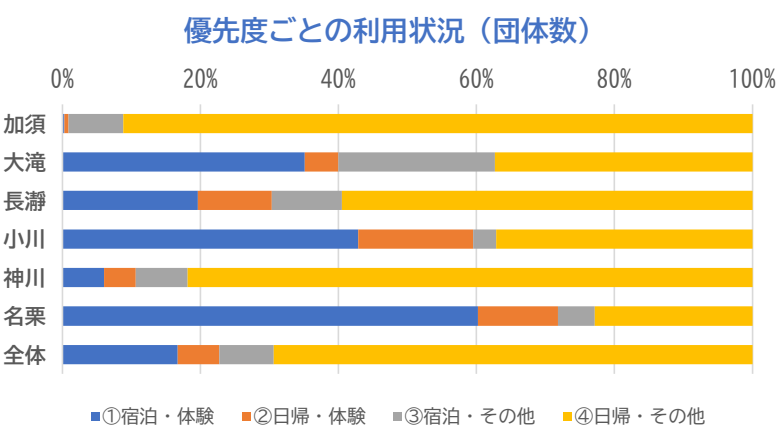
- 優先度① 宿泊・体験・・・今後の施設の方向性として最優先すべき利用形態
- 優先度② 日帰り・体験・・・不登校支援の取組など、利用しやすい日帰りの体験活動の価値は高い。宿泊室を使用しないため、優先度①と同時の受入れが可能
- 優先度③ 宿泊・その他・・・部活動やスポーツ団体の利用が中心。学校の長期休業中の利用が中心で、優先度①と時期は重複しない
- 優先度④ 日帰り・その他・・・一般団体(リピーター)、地元利用が中心。市町村で代替可能。

Ⅲ げんきプラザの再編

2 げんきプラザの再編

(2)げんきプラザ別優先度ごとの利用状況

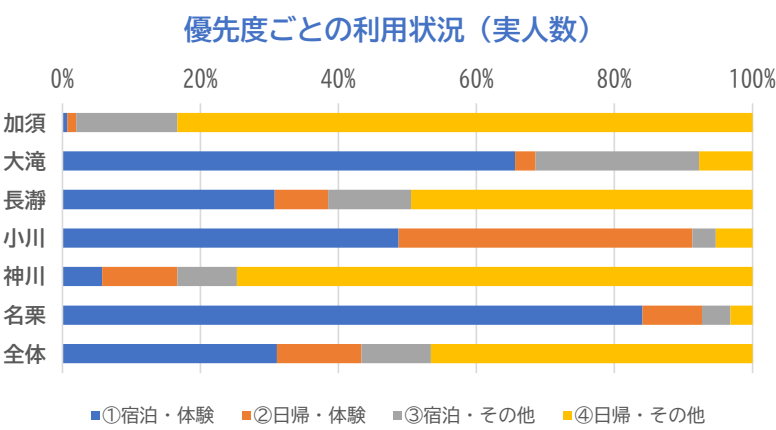
げんきプラザ別の利用優先度ごとの利用状況は以下のとおりであり、名栗・大滝・小川は優先度の高い利用形態が多い一方、加須・神川は体育館やグラウンド等を活用したスポーツ利用等が大半を占める。



(単位:団体)

	宿泊室 定員	その他 宿泊定員	①宿泊・体験		②日帰・体験		③宿泊・その他		④日帰り・その他		合計	
			団体数	割合	団体数	割合	団体数	割合	団体数	割合	団体数	割合
加須	100	-	5	0.3%	11	0.6%	144	7.9%	1,655	91.2%	1,815	100.0%
大滝	400	18	65	35.1%	9	4.9%	42	22.7%	69	37.3%	185	100.0%
長瀬	100	40	126	19.6%	69	10.7%	65	10.1%	382	59.5%	642	100.0%
小川	150	115	232	42.9%	90	16.6%	18	3.3%	201	37.2%	541	100.0%
神川	100	36	62	6.0%	47	4.6%	77	7.5%	839	81.9%	1,025	100.0%
名栗	204	196	295	60.2%	57	11.6%	26	5.3%	112	22.9%	490	100.0%
全体	-	-	785	16.7%	283	6.0%	372	7.9%	3,258	69.3%	4,698	100.0%

※その他宿泊定員・・・テント・バンガロー等



(単位:人)

	宿泊室 定員	その他 宿泊定員	①宿泊・体験		②日帰・体験		③宿泊・その他		④日帰り・その他		合計	
			実人数	割合	実人数	割合	実人数	割合	実人数	割合	実人数	割合
加須	100	-	213	0.7%	379	1.3%	4,319	14.6%	24,584	83.3%	29,495	100.0%
大滝	400	18	5,868	65.6%	262	2.9%	2,121	23.7%	691	7.7%	8,942	100.0%
長瀬	100	40	4,067	30.8%	1,018	7.7%	1,590	12.0%	6,533	49.5%	13,208	100.0%
小川	150	115	9,201	48.7%	8,041	42.6%	637	3.4%	1,003	5.3%	18,882	100.0%
神川	100	36	1,713	5.8%	3,247	10.9%	2,561	8.6%	22,208	74.7%	29,729	100.0%
名栗	204	196	16,043	84.1%	1,646	8.6%	784	4.1%	606	3.2%	19,079	100.0%
全体	-	-	37,105	31.1%	14,593	12.2%	12,012	10.1%	55,625	46.6%	119,335	100.0%

※ 数値は令和5年度、主催事業を除く。

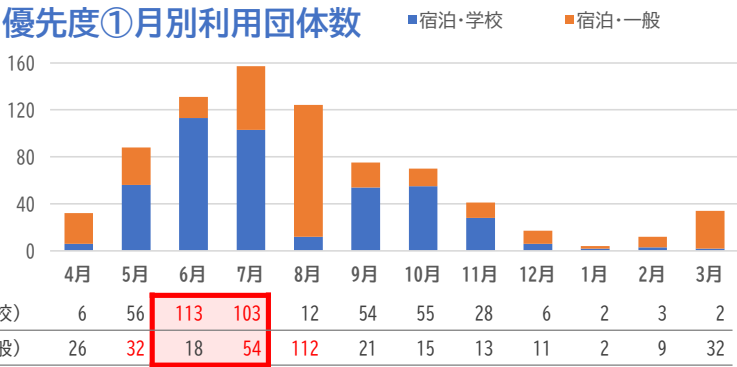
Ⅲ げんきプラザの再編

2 げんきプラザの再編

(3)現在の利用状況から見た施設の適正規模

優先度①(宿泊・体験)と、優先度②(日帰り・体験)は、活動時間や場所の調整により同時受入れが可能であり、優先度①のピークである**6～7月の宿泊利用のニーズを満たす施設規模**を有することが適当。

6～7月の平均利用団体数は学校108校、一般36団体であり、稼業日**1日**当たり、**学校4.3校、一般1.4団体**の宿泊利用が可能な施設規模が適当である。



※ 数値はいずれも令和5年度、主催事業を除く。

(4)自然体験活動の視点から見た施設の優先度

保有コンテンツ・利用状況から、施設の優先度を以下のとおりとする。

↑高
↓低

- **大滝、小川、名栗**は敷地及び周辺の自然環境を生かした自然体験活動が可能。 ※オリエンテーリングやハイキング、星空観察
- **長瀬**は自施設のみでは体験活動に制限があるが、周辺の自然環境を生かした体験活動が可能。 ※カヌー、宝登山登山
- **神川**はグラウンドなどを活用したスポーツ活動利用が中心で、自然を生かした体験活動にやや乏しい。
- **加須**は体育館などを活用したスポーツ活動利用が中心で、自然を生かした体験活動に乏しい。

(5)げんきプラザの再編

「現在の利用状況から見た施設の適正規模」及び「自然体験活動の視点から見た施設の優先度」から、**加須げんきプラザ・神川げんきプラザの2所を廃止し、大滝げんきプラザ・小川げんきプラザ・名栗げんきプラザ・長瀬げんきプラザの4所に再編する。**

(6)今後のスケジュール

利用者への影響や現在の指定管理期間を考慮し、加須げんきプラザ・神川げんきプラザは、**令和7年度末で廃止**することとする。

Ⅲ げんきプラザの再編

3 再編後の運営体制

(1) 県直営と指定管理

これまで、県直営施設として都市型施設である加須げんきプラザと、豊かな自然を有する大滝げんきプラザにおいて、県施策のモデル事業等を実施し、成果等を指定管理施設に展開してきた。

指定管理者制度を導入してから10年以上が経過し、県施策に沿った事業の実施のノウハウが一定程度蓄積されたことから、教育局の一定の関与のもと、指定管理施設においてモデル事業を実施することも可能な体制となっている。

以上のことから、**大滝げんきプラザについても指定管理者制度の導入について検討**することとする。

(2) 事業の継承

廃止対象とした加須げんきプラザ・神川げんきプラザにおいてこれまで実施されてきた様々な事業のノウハウ等はげんきプラザにとって財産である。施設の廃止に伴い、継続する施設において可能な限り事業を引き継ぐこととする。

(3) 施設の魅力化

継続する施設についても、施設の老朽化やバリアフリー・ジェンダーフリー等への対応など施設面の課題は多く、上記事業の継承を含め施設の魅力化を検討し、安心・安全に、充実した体験活動が行える施設整備を検討する。